



現東庁舎のあり方について

<参考資料>



新庁舎整備の経過

新庁舎整備の経過 ①

令和6年度(昨年度)まで

●新庁舎新築建替え方針決定までの経緯

平成 28(2016)年 1月策定

湖南省東庁舎周辺整備計画（基本構想）

平成 29(2017)年 11月策定

湖南省庁舎建設及び周辺整備基本計画

平成 30(2018)年 12月策定

湖南省複合庁舎整備基本設計

令和 2(2020)年 3月策定

湖南省複合庁舎整備実施設計

<令和2年6月>

新型コロナウイルス感染症対策優先のため、整備を一旦見送り

庁舎整備は社会情勢の変化に対応

- ・情報技術の進展、DX化
- ・地球環境への配慮
- ・人口減少に伴う財政規模の縮小の懸念
- ・小規模多機能自治の推進

早急な庁舎整備が必要

南海トラフ地震等
の災害への備え

庁舎に必要な機能を吟味し、
全面建替えだけでなく、現庁舎の耐震補強と増築による庁舎整備も視野に入れ、
より効果的、経済的な整備方法について再考

<令和7年3月議会>

新築建替えに方針表明

R4 東庁舎耐震診断(3次)

IS値0.22

倒壊または崩壊する危険性が高い

参考:H27耐震診断(2次) IS値0.52

< R5～R6 庁舎整備基本計画策定 >

議会との対話

市民アンケート
令和6年4月16日～5月10日

タウンミーティング
令和6年7月～8月

ワークショップ(50歳未満)
令和6年12月



新庁舎整備の経過 ②

令和7年度(今年度)以降

●市民ワークショップ(2/15)までの経緯

議会との対話

<令和7年6月>

新庁舎位置に関する課題整理



<令和7年7月>

新庁舎整備コンセプト発表



<令和7年9月議会>

新庁舎位置の方針表明



市民意見の聴取



<令和7年11月>

市民アンケート & 市民企画型ワークショップ【市長ゲスト参加】
「新庁舎市民交流スペース・新庁舎前広場の利活用調査」



<令和8年1月～2月>

市民アンケート & 市民ワークショップ【市主催】
「現東庁舎の今後について」



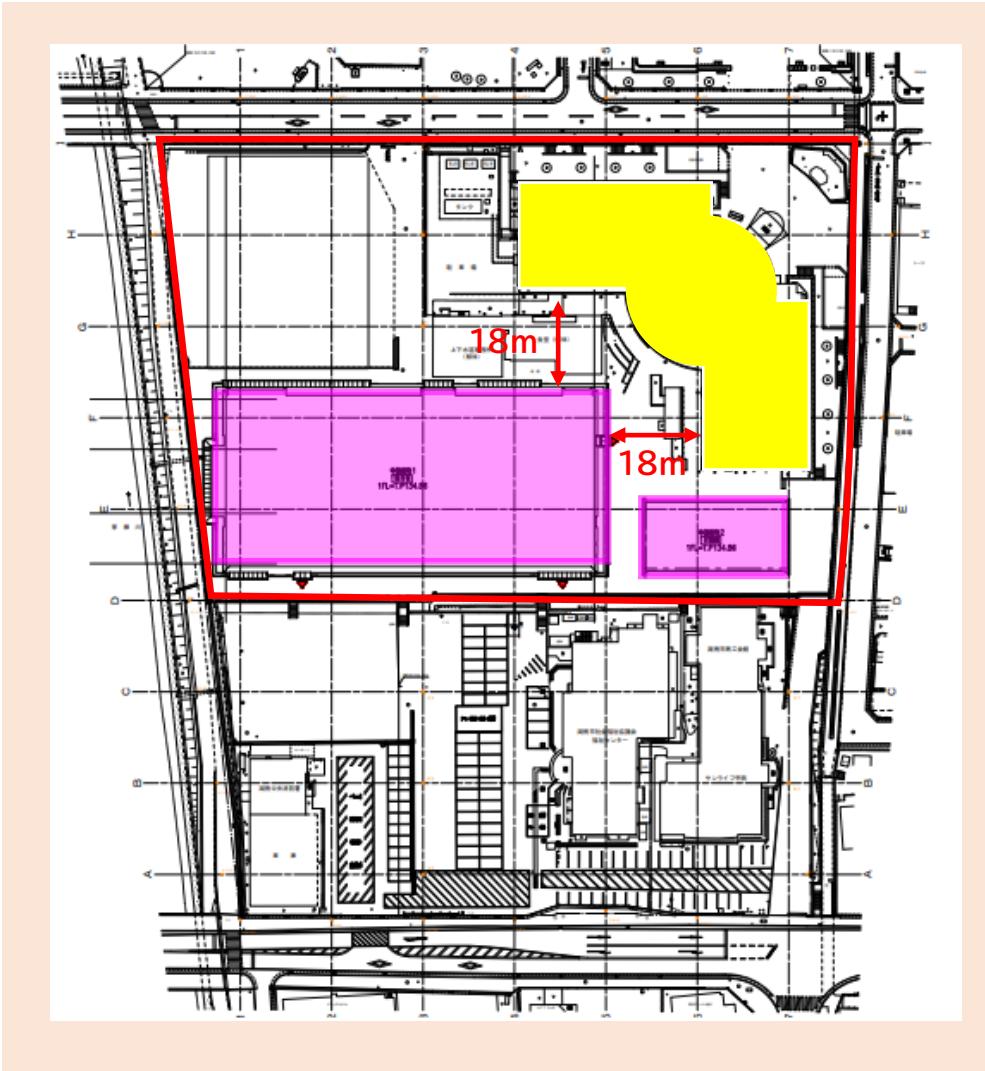
現東庁舎について

検討の主なポイント

- 新庁舎(附属棟含む)と現東庁舎の位置関係図です。

…新庁舎(倉庫含む)

…現東庁舎



現東庁舎は、市民に親しまれてきた建築物ではあります BUT、改修費用、駐車場の再配置、文化ゾーンとの一体利用、新庁舎整備コンセプトの実現など総合的に検討する必要があります。

<検討の主なポイント>

- ① 費用対効果
- ② 将来負担
- ③ 市民の利活用
- ④ にぎわい
- ⑤ 景観
- ⑥ 次世代の継承
- ⑦ レガシー
(歴史的・文化的な遺産)

現東庁舎敷地における想定駐車場台数は以下の通りです。

新庁舎の施工性と既存施設の利活用の検討により、効率的・効果的な庁舎整備を目指します。

■ A案(高台)

■ B案(職員駐車場側)

■ C案(南側駐車場側)

新庁舎の位置を選定する際に検討した配慮事項です。

現東庁舎の敷地を駐車場収容台数に換算した場合

約200台分に相当

・工事ヤードが少ないため、建築面積を減らし階層が増えることが想定され、県道側の圧迫感など景観への影響が生じる。

・東庁舎の利活用を幅広く検討できる。
・庁舎建設前に消防署、社会福祉センターの除却が必要となる。

・現東庁舎があることにより、高台下の駐車場の効率的な配置が制限される。

・消防署と社会福祉センターの除却は、新庁舎建設の必要条件ではないため、新庁舎への移転が完了するまで、以下の有効利用が検討できる。
(消防署) 庁舎工事期間中の現場事務所としての利用
(社会福祉センター) 社会福祉協議会等の継続利用 ⇒ 市福祉事務所との密接な連携

…新庁舎の施工性

…既存施設の利活用

「新庁舎位置 選定の視点」
抜粋資料

(参考) 各工法パターンの概算工事費

現東庁舎を活用した場合の改修工事費と除却(取り壊し)費用です。

湖南省ホームページで
検索してください。

- いずれの工法でも、30年後には建替えが必要となります。
- 工事費以外の詳細な内容は、湖南省庁舎整備基本計画(令和7年3月策定)のP8をご確認ください。

工法別	工事費	イメージ	耐震性能	執務室への影響	工期	備考
耐震壁工法	20.8億円		×	×	○ 3つの耐震改修工法の中では1番短い	
制震工法	25.9億円		○	△	○ 耐震壁補強と比べると少し長い	<u>30年後に建替え必要</u>
免震工法	32.1億円		○	○	×	3つの耐震改修工法の中で最も長い
除却	5.8億円					



新庁舎整備コンセプト

市民ワークショップ

令和6年12月開催

若い世代が、東庁舎をまちづくりの中心拠点として「湖南市の未来」を描いた意見を実現するため、新庁舎のコンセプトを提案します。

市民ワークショップ

庁舎整備について

松浦市長と語ろう



を実施しました！

開催の趣旨

湖南市庁舎整備の検討にあたり、これまで市民アンケートやタウンミーティングで市民の皆さんから多くのご意見を伺いましたが、その回答者・参加者は50歳以上の方が大半を占めました。

そこで、50歳未満の方のご意見にも耳を傾けるため、若い世代の方を対象に今後の庁舎のあり方や庁舎整備の方向性について市長とともに語り合う懇談会を開催しました。



日 時
令和6年12月18日(水)
19:00 ~ 21:00

場 所
湖南市役所 東庁舎
3階 大会議室

参 加 者
43名
(うちZoomでの参加者3名)

ワークショップの内容

1. 庁舎整備の方法について

▶『新築・建替え』と『改修・増築』のどちらが良いか、メリット・デメリットを踏まえて考えを話し合いました！



2. 将来の庁舎について

▶「こんな庁舎になったらいいな」と思うことを語り合いました！

3. 市の中心拠点としての今後のあり方について

▶甲西駅～庁舎～甲西図書館のエリアを市の中心拠点とし、地域の活性化のために効率的な使い方などのアイデアを出し合いました！

4. エリアのネーミング

▶上記エリアに市民に親しみを持って呼んでもらえる名前をつけてもらいました！



参加者の主な意見

■ 将来の庁舎について

- ・全ての人に利用しやすい(気軽に立ち寄りやすい・ずっといれる)場所
- ・用がなくても訪れようと思える場所、気軽に相談に来れる庁舎
- ・カフェみたいな所があると嬉しい
- ・学生が自習できる
- ・中高生が集まることのできるスペースがあるとよい
- ・若い世代と近い職員さんがいてくれる、ディスカッションができる庁舎
- ・湖南市の企業と市民をつなぐ場所
- ・高校生が電車の待ち時間に立ち寄ろうと思える居場所づくり
- ・アクセスしやすい機能的な庁舎
- ・広場でだれでもイベントできる、テナントスペースでイベントがしたい
- ・子どもに優しい設備、子どもに目が届くフロアが良い
- ・子どもや子育て世代の親が集まれる場所になってほしい
- ・フリーで利用できるスペースがある
- ・市役所内で色んなイベントが行えるフリースペース
- ・フレキシブルな内装配置、使い方

■ 市の中心拠点としての今後のあり方について

— 共通 —

- ・イベント開催(マルシェ、祭り)
- ・イベント時の雨天対策として、大屋根をつくってほしい
- ・屋台村
- ・川沿いをライトアップ
- ・いろんな形のベンチ
- ・噴水がほしい
- ・電源が引けるようにしてほしい
- ・川べりに下りて散歩できるように
- ・駐車場を広くしてほしい
- ・企業支援お試し出店

— 新庁舎 —

- ・災害時の避難拠点としてのスペース
- ・観光案内(市外の人も立ち寄る)
- ・毎日キッチンカー
- ・カフェがほしい
- ・室内で遊べる場所
- ・行政主体のイベント

— 甲西図書館 —

- ・より憩いの場に
- ・学習スペース(小さい頃から親しみを持てる)
- ・おしゃれな最先端の図書館
- ・カフェ
- ・お茶が飲める休憩所
- ・蔵書集約して拡張

— 森北公園 —

- ・安全な遊具をたくさん
- ・文化ホールと公園でフェス
- ・すべて芝の広場にしたい

笑顔

交流 ふれあい
憩いの場

未来 時代の変化に対応
フレキシブル

<新庁舎整備コンセプト>

自然とひとだまりができる、 交流が生まれる新庁舎

～ひとり、ふたり...ひとが集まり、交流が生まれる～

心うつと
気輕に

使いたくなる
やつてみよ!

にぎわい
ワクワクするような

すべての市民に開放する



<テーマ1>

子どもの「やってみたい」と「おもいっきり」でまちを笑顔に

子どもがワクワクして思いっきり遊べるインタラクティブな場所

<コンセプトイメージ>

新庁舎から森北公園までの一帯エリアでは、子どもがワクワクして思いっきり遊べる環境を整備します。

例えば、夏は水遊び、冬は光とミストなどで幻想的な風景を演出することなど、季節ごとに違う表情を持つ空間により、「親子のひとだまり」を創出します。

【若い世代の意見】

- ・水遊びエリア
- ・室内で遊べる場所
- ・子どもが遊んだり見学したりできる場所
- ・子どもが入って遊べる噴水
- ・子どもが過ごしやすいキッズスペース
- ・子どもが声を出してもよいスペースをつくる
- ・いろんな形のベンチ
- ・広場に噴水があってほしい





<テーマ2>

学生の探求がまちを育てる

学生がふらっと立ち寄って自習ができ、湖南市の魅力や課題に出会い探究できる居場所

<コンセプトイメージ>

市民交流スペースには誰もが使える机と椅子が配置され、学生がふらっと立ち寄れる「知のひとだまり」を創出します。学びの中で湖南市の魅力や課題に出会い、探究から主体的な行動が生まれていくような好循環を支えます。

【若い世代の意見】

- ・待ち時間有意義に使えるスペースがある(勉強・スポーツ)
- ・学習スペース(小さい頃から親しみをもてる)
- ・学生が自習できる
- ・高校から徒歩圏内なので、たまり場になるようなスペース
- ・中高生が集まることができるスペースがあるとよい
- ・高校生が電車の待ち時間に立ち寄ろうと思える居場所づくり





＜テーマ3＞

市民の活動スペースが生みだす日常の余韻

忙しい日常にほっと一息つける大切な時間を新庁舎で過ごしたいと思える空間

＜コンセプトイメージ＞

市民と職員のまちづくりの対話空間を設置。掲示板で提示された市政のテーマに対して、市民が自由にアイデアを伝えることで、職員とのフラットなやりとりから生まれる多様なヒントは、まちづくりの財産になります。

乳幼児を持つ子育て世代のための調乳スペース、キッズブロックで子どもが遊べるコーナーを設置することで、気分転換に安心して子どもを連れて出かけられるママ・パパの居場所と、世代間の新たな出会いが生まれます。

飲食店や福祉作業所による日替わりのカフェ・物販、市内企業による自社商品の紹介や職場情報の発信など、多様な主体が入れ替わりながら参加することで、人材のマッチングや地域資源の発信が自然に生まれる場をつくります。市民がヒト・モノの魅力に触れ、応援し、関わることで、地域の価値を育み、共に創造する拠点となります。

【若い世代の意見】

- ・湖南市の企業と市民をつなぐ場所
- ・おしゃれなカフェみたいな場所があるとうれしい（おしゃべりしてもいい雰囲気）
- ・仕事やコミュニティが作れる場所になってほしい
- ・誰もが必要とし、実現できる場所
- ・若い世代と近い職員さんがいてくれる
- ・子どもや子育て世代の親が集まる場所になってほしい
- ・子どもが安心して遊べるような広場があれば、ママ友も集まりやすいし、情報交換ができる
- ・ディスカッションができる庁舎
- ・交流スペース
- ・窓口相談以外で行く目的がある
- ・企業支援お試し出店
- ・やってみたいを応援エリア
- ・フリーで利用できるスペースがある





＜テーマ4＞

非日常のなかの市民活動の舞台

市民が誇る活動の舞台と文化ゾーンが一体となった大規模な空間

＜コンセプトイメージ＞

新庁舎の玄関まわりには大屋根と庇(ひさし)の設置や、開閉式シェードなど天候や季節に対応できる設備も検討します。天候を問わず快適に利用できるスペースとして、セレモニーや市民活動の発表、駐車スペースを利用したキッチンカーやイベントブースの設置をイメージします。また、新庁舎と森北公園等の一体利用によって、湖南市にしかできない市民が誇れる舞台を演出します。

【若い世代の意見】

- ・イベントの開催(週末マルシェ、祭り)
- ・市民が遊びに来れるようなスポットに
- ・イベント時の雨天対策として大屋根やテントの設置
- ・屋内イベントができる
- ・電源が引けるようにしてほしい
- ・ランドマークを作る
- ・キッチンカー
- ・だれでもイベントができるスペース
- ・庁舎と文化ゾーンのつながり
- ・駅から近いので、市外から遊びに来てくれると嬉しい
- ・イベントが開催できる庁舎がよい





<テーマ5>

自然と歩きたくなる周辺歩道

楽しみながら自然と歩きたくなる歩行者ファーストの空間設計

<コンセプトイメージ>

来庁者が自然と歩きたくなるような、庁舎周辺は歩行者ファーストの空間を創出します。市民が手入れする四季折々の花木は視覚や香りで楽しませてくれます。また、歩道にはカラー舗装や距離表示、駐車場には緑地を取り入れる工夫をすることで、庁舎周辺を健康的に歩くことができる景観をつくります。

庁舎敷地内の通り抜け車両と歩行者との接触リスクを軽減するための検討や、目的外駐車の防止のためカメラ式の駐車場を設置するなど、周辺歩道の安全を確保します。

【若い世代の意見】

- ・庁舎周辺で安心して運動できる
- ・子どもに優しい駐車場
- ・寄りつきにくいとまず立ち寄ろうと思わないので、車での出入りのしやすさや見える景色、雰囲気も重要
- ・駅から行きやすいわかりやすい動線
- ・庁舎と公園の間の道路が危ないのでレンガ道などにして車のスピードを抑えられるようにしてほしい
- ・アクセスしやすい
- ・歩車分離
- ・景観を乱さないナチュラルな外観





<テーマ6>

新しい時代に対応できる可変性のある環境

「つくりすぎない」「つくり込まない」を基本としたレイアウトで、いつの時代も快適で機能的な環境

<コンセプトイメージ>

① 市民が笑顔になれる環境づくり

中央まちづくりセンターが備えていた集会機能の空間を設け、市民活動や交流のハブとします。市民のニーズを踏まえ、大人数から少人数(10人以下)までシーンに合わせ可変性のある空間をつくります。また、市民が気兼ねなく傍聴できるようバリアフリー機能を施すことで、市民に開かれた議会を実現します。

② 庁舎で働くひとが笑顔になれる職場づくり

庁舎整備基本計画の基本方針より、可変性のあるオフィス環境と多様な働き方を可能にする設備を導入し、主体的な職員の成長を支え、若い世代に働く場所として選ばれる職場環境をつくります。

【若い世代の意見】

- ・フレキシブルな内装配置、使い方ができるようにしてほしい
- ・福祉の集まりが増える庁舎
- ・誰もが必要とし、実現できる場所
- ・新しい時代に合った構造にできる
- ・市民が訪れたいと思えるような明るく、これから湖南市に希望がもてるような庁舎
- ・すべての人に利用しやすい場所
- ・職員のモチベーション
- ・時代の変化に対応可
- ・バリアフリー
- ・すべての市民に優しい庁舎

